

カンボジア 中央カルダモン森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2016年10月
コンサベーション・インターナショナル

中央カルダモン国立公園の管理

今期、「中央カルダモン国立公園」の管理の森林局から環境省へのスムーズな移行に向けて、環境省と密に協力しました。移行に際し、レンジャーたちが継続して任務を遂行でき、取り締まりにギャップが生まれないようにしなければなりません。軍警察たちも留まり、取り締まりに必要な人数で活動することができています。また、中央カルダモン国立公園の管理を強化する一環で、レンジャーたちは異なるステーションを循環することになりました。レンジャー同士の交流と異なる環境に対応する訓練のためです。

中央カルダモン国立公園の管理を強化するために、日本大使館の支援により、O'Som に新たなレンジャーステーションを開設しました。新しいステーションはより機能的で広く、多くの人を収容することができます。また、ステーションの場所も移動し、新しいステーションは、重要な中継地点の近くに位置し、取り締まりの上でも効果的です。

O'Som 州の環境省の警備主任との会合を重ね、違法占拠問題の解決に向けて話し合いました。環境省と CI、Wildlife Alliance（隣接する地域で活動する NGO）の話し合いでは、これまで中央カルダモン国立公園内で行われていた建設会社による違法伐採をやめさせることで同意しました。すでにこの企業は違法伐採をやめています。国の政策レベルでは、自然資源を管理する法律の補助する枠組みである環境基準の作成に積極的に参加しています。それと関連し、中央カルダモン国立公園の内部の保全コリドーと中央カルダモン国立公園と他の保護地域を結ぶ保全コリドーの制定に向け、環境省の支援を続けています。

さらに今期は、マドックス・ジョリー・ピット基金から調査チームが Thmar Bang レンジャーステーションと Tatai Leu 村を訪れました。ここで実施している取り締まりのアプローチと Tatai Leu 村において成功しているエコツーリズムを紹介することができました。

モニタリングについては、CI とパートナーと環境省とで、中央カルダモン国立公園のカメラトラップデータを収集しました。カメラトラップを仕掛けて約一年。14 種の未同定種を含む 64 種類の生物が写っていました。研究者との連携も続けており、マイクロ水力発電の調査を実施したニュージーランド大学の研究者は、中央カルダモン国立公園内のマイクロ水力発電の数が国内では最多であることを明らかにしました。



マイクロ水力発電ユニット



Tatai Leu 村にて、マイクロ水力発電ユニットを調べる研究者

© La Pengly

9 月下旬には、環境省と一緒に、中央カルダモン国立公園の今後半年間の活動計画と予算の作成を始めました。

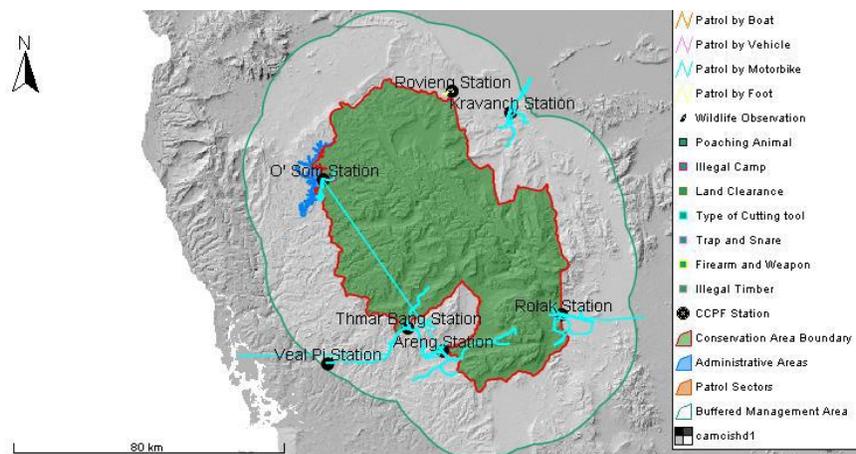
トラストファンド（基金）

トラストファンドの次の理事会は、来期に行われる予定です。

パトロールと違法行為への対応

監督省庁の、森林局から環境省への移行が完了しました。レンジャーたちはこれまで通り、パトロールを続けています。

現在、6箇所 の活動拠点施設があります。今期はのべ 146 日間、137 回のパトロール（夜間 9 回を含む）、1850km をパトロールしました。



中央カルダモン国立公園・マネジメントチームは、定期的に打ち合わせをしています。今期最も議論したのは、レンジャーの所属の移行やパトロールの継続方法、新たな監督官庁である環境省との関係の強化等、いかに所管の移行を最善な形で乗り切るかについてです。絶滅の危険性が高いアロワナ（ドラゴンフィッシュ）とシャムワニのパトロールも、引き続き行っています。

トレーニング

カンボジア国内外で、多くのトレーニングを行いました。すべてのレンジャーたちが、ステーションで WildScan（スマホ用アプリ）のトレーニングを受け、プノンペンでも再度トレーニングを受けました。このアプリを使うと、違法行為についての情報をより速く、より正確にやり取りすることができます。さらに、Grandis timber 社を対象としたトレーニングも行いました。SMART（地理情報をパトロールに活用するツール）やパトロールのテクニックについて、社内のレンジャーの能力を高めることを目的としたものです。Grandis Timber 社は中央カルダモン国立公園の境界付近の土地のコンセッションを所有しているので、このような取り組みから、民間セクターとの関係、そして公園の南西部のバッファゾーンの保全の強化が期待できます。

公園レンジャーのための、無線や GIS、GPS のトレーニングも実施しました。

中央カルダモン国立公園のマネージャーであるマナック氏は、米国政府の支援で、8月29日から9月2日まで、バンコクで開催された Advanced Wildlife Trafficking のコースを受講しました。このトレーニングは、アメリカ合衆国魚類野生生物局によって開催されたものです。さまざまな野生生物の密売の取締りを強化している現地での調査を学びました。カリキュラムは、野生生物の密売、事件の管理と報告書作成、情報源、倫理と汚職、覆面調査、インタビュー、車両や境界線の調査など、盛りだくさんでした。

カメラトラップデータ

重要なデータが入手できたので、現在分析中です。大変貴重な妊娠しているゾウの映像も撮影されていました。

映像へのリンク：

<https://drive.google.com/file/d/0B6NcrxjWde7wZmdlYm9qNEstajQ/view>

<https://drive.google.com/file/d/0B6NcrxjWde7weVU0bU90dWhDbGs/view>

コミュニティ主導型のエコツーリズム (Community Based Eco-tourism)

Tatai Leu 村におけるエコツーリズムの開発はずいぶんすすみましたが、カンボジアではこの数ヶ月は雨季のため、観光客がほとんど訪れません。この期間を利用して、エコツーリズムを催行するコミュニティの体制の強化、レンタサイクル用の自転車の購入、インフラの改善をしました。ホームステイの施設や看板も完成しました。



Tatai Leu 村のエコツーリズムの看板の例



新しい自転車と、観光情報センターの前で © Sokhorn Kheng

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。